

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
			項目	総合	
Ⅰ 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進					
1	家庭教育支援の充実に努める。 ・ 啓発活動の推進 ・ 全校生徒の三者面談実施	・ 家庭の学習習慣の重要性やスマートフォン・SNS使用について啓発を図る。 ・ 夏季休業中に全ての家庭と個人面談を行う。	3.1		○定期テスト前の週にメディアコントロールワークを実施した。また、保健だより等を活用して積極的に啓発を行った。 ○夏季休業中にすべての家庭と個人面談を行い家庭の状況を把握できた。 ●メディアに関しては、今後も継続して取り組む必要がある。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。(PTA活動) ・ 積極的な情報発信 ・ PTA活動の見直し ・ 学校運営協議会との連携 ・ 地域人材との積極的連携	・ 学校ホームページや学級通信などを活用し、情報を発信・提供する。 ・ 生徒に必要なPTA活動を実施する。 ・ 学校運営協議会と連携しながら、課題解決に取り組む。 ・ 地域人材との積極的な連携を通して、学校行事等の充実に図る。	3.0	3.1	○ホームページについては、最小限の更新にとどまった。また、定期的に各学級通信等で学校の様子を提供できた。 ○PTA年間活動計画に沿って、協力しながら実施することができた。 ○学校運営協議会で出された意見を参考に、課題解決に向けて全体で取り組むことができた。 ○各学年の総合的な学習の時間で、地域人材を積極的に活用し、キャリア教育を推進できた。 ●学校の様子を定期的に保護者・地域へ発信する。
Ⅱ 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人材を育む教育の推進					
1	読書活動を推進する。 ・ 貸出冊数3000の達成 ・ 読書事務との連携	・ 図書事務と連携して図書室来校者数、図書貸し出し数、本に触れる生徒、読書に親しむ生徒を増やす。 ・ 定期的にボランティアによる読み聞かせを実施し、本に興味を持たせる。 ・ キャリア教育につながる新聞記事の活用・充実に図る。	3.0		○図書事務と連携し、新刊の購入を行い図書室の充実に図った。 ○年間8回各学級での「読み聞かせ」を実施し、本に興味をもち、親しむ習慣につながった。 ○キャリア教育に関する新聞記事をスクラップシートにまとめ、教材として活用できるよう整理した。 ●貸出冊数2212冊(1/30現在)、目標の3000冊を下回る見込みである。 ●なかなか読書をする生徒が増えない状況がある。学習委員会と協力し、生徒が図書室へ行くような取り組みを考えていく。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ・ 各学年実力テスト地区平均を目指す。 ・ 宮崎大学との連携、ICTの効果的な活用 ・ 授業力の向上 ・ 家庭学習の充実	・ 読解力向上のため宮崎大学との連携を図る。(経年変化の分析等) ・ 研究授業や研修を通して教員一人一人の授業力向上を図る。 ・ 授業におけるICTの効果的な活用を図る。 ・ 生徒、保護者に対して啓発活動を行い、家庭学習を充実させる。	3.1		○夏季休業中に宮崎大学と連携し、RSTの分析を行い、教師それぞれが、アウトプットを意識した授業改善を行い、読解力の向上や学力向上に努めた。 ○各教科でばらつきはあるが、タブレット等のICT機器を活用した授業を実施することができた。 ●職員間で活用の仕方等を共有し、タブレットを活用した授業がどの教科でも展開できるようにしていく。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ・ いじめ実質ゼロ ・ 道徳教育・人権教育の推進 ・ いじめ防止基本方針に基づく取組の推進 ・ 「いのちの教育週間」での啓発活動の実施	・ 授業を中心とした道徳教育を充実させる。 ・ 平和や命を大切にするための講話や人権週間の取組を行い、人権教育を推進する。 ・ いじめ不登校対策委員会を毎月実施し、特にいじめの早期発見、早期解決を図る。	3.2		○学校生活アンケートを毎月実施し、いじめ不登校対策委員会での対策を協議し、いじめの早期発見・解決に努めた。いじめの未然防止につながった。 ○道徳の授業を核にし、平和学習、命を大切にする教育、人権学習集会を計画し、生徒の心に響く学習が実施できた。 ○関係諸機関と連携し、不登校・不登校傾向生徒への改善を図ったが、なかなか解消・変容につながらない状況である。 ●今後も関係機関と連携し、少しでも登校できるよう働きかける。
4	特別支援教育を推進する。 ・ 個に応じた特別支援教育の充実 ・ 研修の推進	・ 生徒理解を通して、一人一人に応じた教育を充実させる。 ・ 特別支援教育の研修を行い、教職員の資質向上を図る。	3.1	3.1	○毎週水曜日に生徒理解の時間を設け、不登校生・不登校傾向生徒、特別な支援が必要な生徒等の状況を全職員で共通理解し、日々の教育活動に生かすことができた。 ○夏季休業中に特別支援教育に関連した研修を行い、教職員の資質向上を図った。

5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ・ 農業大学校との連携 ・ 小学校、地域と連携した取組の推進 ・ ふるさと学習の推進	・ 農業大学校と連携して作物栽培や販売を行い、地域産業を体験するとともに地域の方々との交流を図る。 ・ 生徒会が主体となり、地域美化活動等に取り組む。 ・ 各学年の総合的な学習の時間でふるさと学習を推進する。	3.1	○ 農業大学校の協力をいただき、カボチャとサツマイモの植え付け・収穫を体験した。また、軽トラ市ではサツマイモの販売を行った ○ 各学年、総合的な学習の時間で、地域の人材を活用した。ふるさと学習については、主に1学年で実施し、ふるさと川南を深く知ることができた。 ○ 生徒会が主体となり、地域クリーン活動を実施し、地域の方との交流ができた。 ● 今後もより多くの地域人材を計画的・系統的に活用していく。
6	キャリア教育を推進する。 ・ 地域学校協働活動推進員等との連携 ・ 地域と連携したキャリア教育の推進	・ 地域学校協働活動推進員等と連携して系統的なキャリア教育を推進する。 ・ 職場体験学習、職業講話等、地域の力（人材）を活用したキャリア教育を推進する。	3.3	○ 地域学校協働活動推進員と連携しながら、地域人材等を活用した職業講話などのキャリア教育を推進できた。 ○ 職場体験学習において、仕事の楽しさや大変さを学ぶことができた。 ● 今後も継続し、生徒に職業観についての学習やキャリア教育を推進していく。
7	社会の変化に対応した多様な人材を育む教育を推進する。 ・ オンライン授業実施の推進 ・ ICTの効果的な活用研修 ・ ICT支援員の積極的な活用	・ オンライン授業を実施できる環境を整備する。 ・ ICTの効果的な活用について研修し、生徒がタブレットを中心としたICT機器の操作について指導を行う。支援員の活用に努める。	3.1	● ICTの効果的な活用（AIドリル）について研修を行ったり、職員間で具体的な指導について情報交換を行ったりしているが、生徒への指導については教員の差が大きい。 ○ 各学力調査等、ICT支援員を活用しスムーズに実施することができた。
Ⅲ 教育を支える体制や環境の整備・充実				
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ・ 不祥事ゼロ ・ コンプライアンスチェック・研修 ・ 業務の見直し	・ 定期的なコンプライアンス項目のチェックや研修を通して個々の意識の向上を図る。 ・ 組織的な業務の見直しを行い、授業の準備や積極的な生徒指導等に時間や労力をかけるための働き方改革を推進する。	3.0	3.1
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ・ けがや病気の未然防止 ・ 定期的な安全点検 ・ 危機管理マニュアルの確認	・ けがや病気（感染症等）を未然に防ぐための対策を行う。 ・ 施設設備の定期的な安全点検を行う。 ・ 危機管理マニュアルで、緊急時の体制・動きの共通理解を図る。	3.2	
Ⅳ 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進				
1	学校体育の推進に努める。 ・ 体力向上プランの推進 ・ 適正な部活動の推進	・ 体力向上プランに基づいた体力の向上を図る。 ・ 適正で効果的な部活動を推進する。 ・ 地域の人材を効果的に配置・活用する。	3.2	3.2
○ 体力向上プランに基づいた実践で体力向上に努めた。 ○ 部活動は平日、休日とも県の方針に沿って適正に運営されている。 ○ 各部活動、部活動指導員、外部指導者が配置され、効果的な部活動の推進につながっている。				